

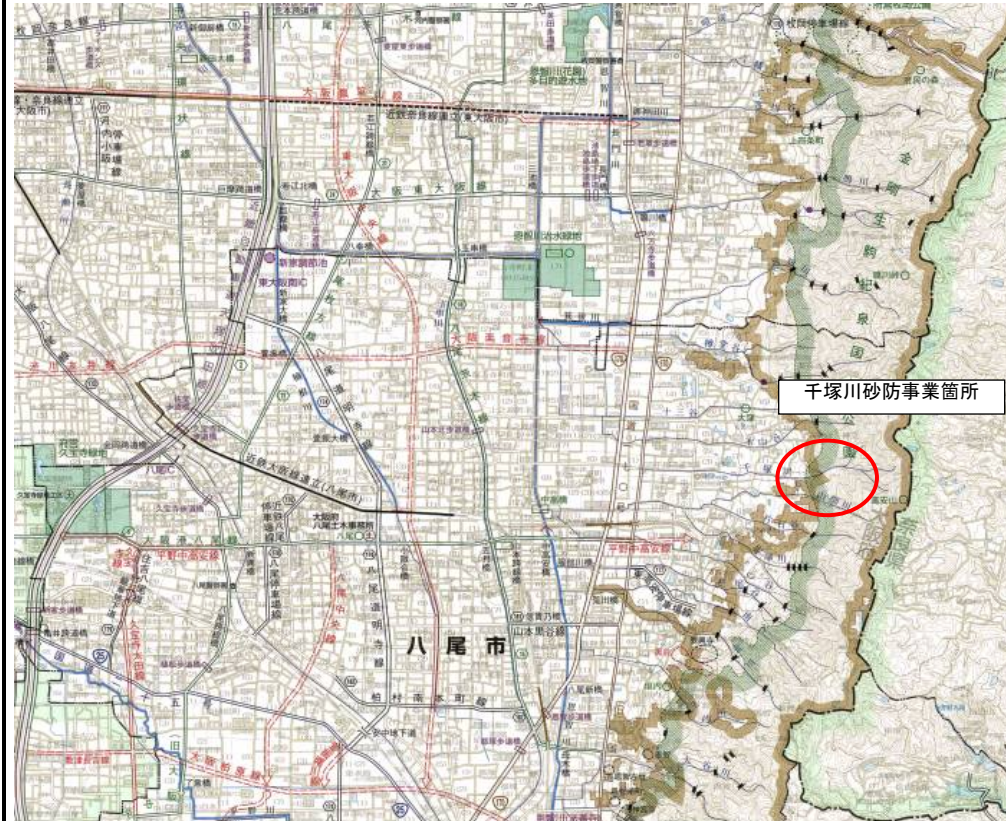
再評価調書（再々評価）

事業名	淀川水系 千塚川 砂防事業				
担当部署	都市整備部河川室ダム砂防課砂防グループ（連絡先 06-6944-9302）				
事業箇所	八尾市 神立				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	本溪流は、土石災害から、府民の生命・財産を守るため、自然的要件（地形、荒廃）社会的要件（避難所・避難路、災害時用援護者施設・被害の影響の大きい）をもとに重点化の評価を行った結果、優先的に整備すべき箇所となっているため、人家等に直接的に土石災害を及ぼす恐れのある溪流について、砂防施設の整備を促進し、土石流等の土石災害に備える。			
	内容	砂防えん堤工 1基 堤高 14.5m 堤長 78.0m			
	事業費	全体事業費：約4.5億円（約4.5億円） うち投資済事業費：約3.0億円 （内訳）調査費約 0.4億円（約0.4億円） （内訳）調査費約 0.4億円 用地費約 1.8億円（約1.8億円） 用地費約 1.8億円 工事費約 2.3億円（約2.3億円） 工事費約 0.8億円 （ ）内の数値は再評価時点のもの			
	維持管理費	-			
	上位計画	・大阪府都市基盤整備中期計画（案）改定版（平成17年3月策定） 財政再建プログラム案に基づき、見直しを行っていく。			
	関連事業				
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析【完成予定の変更理由】
		事業採択年度：H6 事業着手年度：H7 完成予定年度：H10	H6 H7 H22	H6 H7 H23	工事進入路となる農道整備に併せて砂防事業を実施
	進捗状況		（平成14年度末） 用地：100% 契約済 9696.92 m ² / 全体 9696.92 m ² 工事：42%	（平成19年度末） 用地：100% 契約済 9696.92 m ² / 全体 9696.92 m ² 工事：42%	
	途中段階の整備効果発現状況	下流河川への有害土砂流出を防止し、土石流災害を防止する。			
	事業進捗に関する課題	特になし			

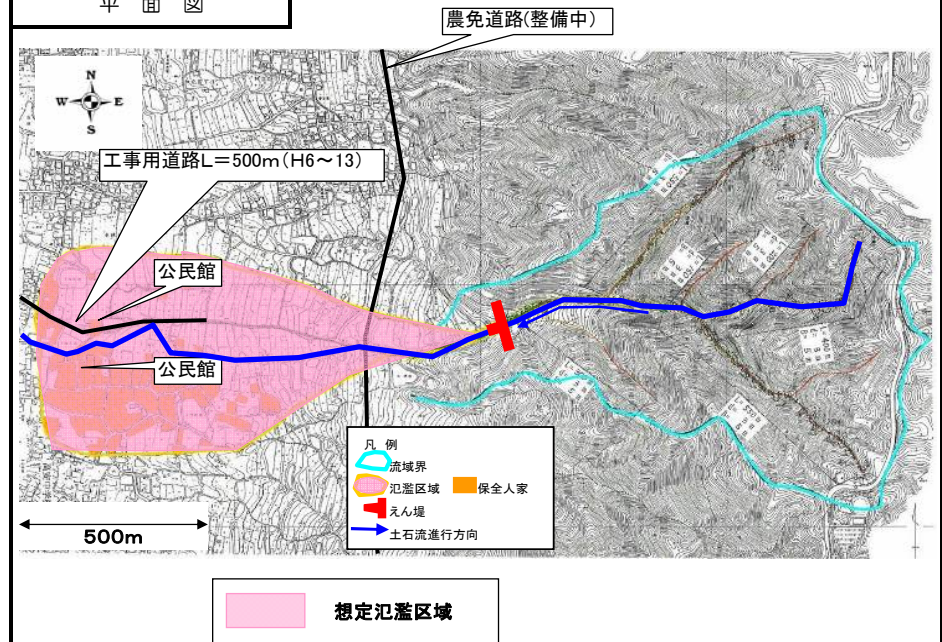
事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		災害発生危険度 土石流危険溪流であり、 溪床には不安定土砂が堆積しているため、今後の降雨により土石流の発生が高い。 保全対象 人家：239戸 公民館：2戸 市道：2480m	同左	同左	諸状況に変化なし
地元等の協力体制		市からの強い要望があり、全面的な協力体制を得ている。			

	計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出していない。		B / C = 9 . 6 5 便益総額 B = 4 5 . 5 億円 総費用 C = 4 . 7 億円 算出根拠 国土交通省河川局砂防部(H12)「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」	・ B / C = 1 1 . 8 2 便益総額 B = 5 0 . 5 9 億円 総費用 C = 4 . 2 8 億円 算出根拠 国土交通省河川局砂防部(H12)「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」	現時点の便益内訳 <ul style="list-style-type: none"> 人命保護効果（人命損失軽減）： 15.9 億円 家屋被害軽減効果：31.9 億円 公共・公益施設被害軽減効果： 2.8 億円
	その他の指標（代替指標）					
事業効果の定性的分析	安全・安心	土石流による人家への直接的な被害の軽減が図れる		変更なし	変更なし	土石流災害を未然に防止し、人命、保全計画家屋等の安全性確保が見込まれる。
	活力					
	快適性					
	その他					
自然環境等への影響と対策	・砂防えん堤により、渓床、渓岸の侵食が防止されるため、堆砂敷より上流の樹木を保全できる。			変更なし	変更なし	
その他特記すべき事項	前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	（意見具申）事業継続 （府の対応方針）事業継続	今回の再々評価時点の反映状況	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に事業効果が発揮できるよう、事業進捗に努めている。 ・本事業による砂防えん堤によるハード対策に加え、ハザードマップや砂防フェア、土砂災害警戒情報、防災訓練等のソフト対策による住民の安全・安心の充実を図っていく。 		

事業箇所図



平面図



標準断面図

